

日本語の口語的変形

近藤雅恵*

Transformations in Oral Japanese

KONDO Masae

abstract

In Japanese, written form and oral form are historically different.

In this research I tried to find some regularity in transformations of oral form in written media.

They are, for example, OMBIN-KA, curtailed vowel, shortcut form, and so on.

Key words : oral Japanese, transformation, OMBIN-KA, curtailed vowel, shortcut form

はじめに

日本語は、伝統的に書きことばと話しことばがそれぞれ別々の歴史をたどってきた言語である。

話しことばは地域ごとに独自であったから、地域が異なれば話がまったく通じないということもあった。今日でも旅のテレビ番組を見ればあきらかなように、各地域にまださまざまなちがいが残されている。

書きことばはいちおう全国的な共通語であった。しかしその種類は豊富で、明治初期でも漢文体・漢文直訳体・和文体（擬古文）・候文体・欧文直訳体等、地位や身分、用途などによってそれぞれの文体が使いわけられた。明治期後半にはそれらが渾然となって、少々口語に近い普通文といわれる文語文が使われるようになる。今日われわれが使用している書きことばは漢字仮名交じり文ともいわれるもので、明治普通文が改良されてさらに口語に近づけられたものである。

明治35年文部省の国語調査委員会は、日本語における書きことばと話しことばの二重構造を埋めるべく、決議事項のひとつとして「文章ハ言文一致体ヲ採用スルコト」と発表した。^(註1)翌年には国定教科書ができて、以来話しことばはデスマス調の形式が一般に広められることとなった。このとき標準とされたのは「東京の教育ある人の言葉」^(註2)である。

さらに第二次世界大戦後テレビの普及などで、この東京的な話しことばが全国で通用するようになり、今日では話しことばはかなり平準化されつつあるともいえる。東京でさえ江戸語につらなる生粋の東京語を使える人は急速に減少している。文学等の会話文やテレビドラマなどで使用されるのは、特定の方言以外、この平準化された話しことばのようである。

話しことばは、文字どおりや文法どおりに使われるものではないから、しばしば音の変化・省略・脱落やさらにはかたちの省略などを生ずることになる。一時期マスコミで騒がれたラ抜きことばはそのほんの一例にすぎない。ラ抜きはたまたま動詞にあらわれるため、その活用形式に及ぼす影響もあってか大いに注目されたが、話し

キーワード：話しことば、単音的変形、連音的変形、音変化、音便化

*平成14年度生 国際日本学専攻

ことばにみられる変形は以下にみるようにそんなに単純ではない。しかも話しことばだけに出現するはずの変形が、近年どんどん書きことばの領域にも進出しているようにも思われる。これもひとつの言文一致現象とはいえないだろうか。

本稿では、おもに記述された話しことばから、変形に一般的な規則性というようなものが見出せないものかと考え、集約してみた。その結果、それらの変形は大別して、単音的変形と連音的変形とにわけられることがわかった。今回は枚数の関係から、単音的変形のみをとりあげる。変形の説明にはしばしばローマ字を用いた。厳密には音声記号を用いるべきかもしれない。しかしそれは問題を煩雑に見えにくくするばかりであり、また表記と発音が一致していないこととかわる問題、たとえば記述されない母音の無声化^(註3)などは、対象の範囲にふくまれていない。

なおこの集約はあくまでも音やかたちからの変形を基準にしてあるため、文法的観点からは不自然な配列となつたことを最初におことわりしておく。

第1部 単音的変形

単音的変形とは、ことばの変形が、隣接音に影響を及ぼさないで、その部分だけに変化や省略などがあらわれるばあいである。

1 音便化

促音便化は広範囲にみられるが、撥音便化されるのはラ行音だけのようである。またレ音にかぎってはイ音便もあらわれる。

(1-1) 促音便化

- 「アラジンストーブ共同購入 携帯からもオッケーです」 オーケー^(註4)
 「どうして追^っかけて行かなかったの」 追イカケテ (男)
 「平凡すぎちゃう毎日。まあ、い^っか！」 イイカ^(註5)
 「そ^っか、もうすぐなんだ」 ソウカ^(註6)
 「一歩まちが^ったらあの弁天堂はなくなつたんですね」 マチガエタラ (じ)
 「成金趣味のお^っきい家買って、車買って…」 オオキイ (阿)
 「とにかく、ど^っかで雨宿りしようや」 ドコカ (ヲ)
 「あ^ったかい家庭料理 ふじい」 アタカイ^(註7)
 「撮影失敗^っすね」 失敗デスネ^(註8)
 「仕事も男もと^っかえひ^っかえしながら気楽に生きている」 取リカエ引キカエ^(註9)
 「もしかす^っと、オレって、出版界では特殊なのか」 スルト^(註10)

(1-2) ラ行音の撥音便化

- 「あのね、わかんない奴もいるさって」 ワカラナイ (中)
 「つまんない投書して^ンのよね」 ツマラナイ、シテル (阿)
 「そうかい、あんがとうよ」 アリガトウ (き)
 「ヤンなさいよ」 ヤリナサイ (阿)
 「みんな、いいことしてやがんのにな」 ヤガル (中)
 「人には木の端切れみたいに思われてんのよ」 思ワレテル (総)
 「御徒町に吉池ってデパートあんだろ！」 アルダロ (じ)
 「これあんたがこわしたことにしてくんない」 クレナイ (無)

「あっ、そ、わかったわよ。そんならいいわよ」 ソレナラ (無)

(1-3) レのイ音便化

「そいで、よそ、遊び、行っちゃうのよ」 ソレデ (附)

「そいから高尾井戸ってゆう井戸もありましたしね」 ソレカラ^(註11)

「こいじゃあ、中のクリームがみ~ないっす」 コレジャア <みえないっす>^(註12)

2 長母音の短音化

語中または語尾の長母音が、のばされないで単母音化されたものである。

(2-1) 語中の例

「まだ言わないで さよならだけは」 サヨウナラ (中)

「よくこやつてお父さんの帰り、待ってたわよね」 コウヤツテ (附)

「ほつといてよ！」 ホウツトイテ (附)

「どしてもどって来たんだよ」 ドウシテ (附)

「そしたら今日みたいに寒い日に…」 ソウシタラ (附)

「職場を支えるあの人の最低賃金だいじょぶ？」 ダイジョウブ^(註13)

(2-2) 語尾の例

「ありがとう」 アリガトウ (中)

「だけ、このやろ」 ヤロウ (き)

「あたしを笑いにきたんでしょ」 デショウ (き)

「お前また何かやったんだろ？」 ダロウ (ザ)

「もう十分 元はとったろ！」 トッタロウ (こ)

3 ラ行音の脱落

ラ抜きことばかり注目されるが、ラ音ばかりでなく、ラ行音はいずれも抜けおちやすい音であるようだ。

(3-1) 動詞可能形におけるラ抜き

「今夜じゅうに行ってこれる海はどこだろう」 コラレル (中)

「渋滞になると 数ヶ所しか見れませんよ」 ミラレマセン (こ)

(3-2) リ抜き

「わたしよか、ばあさんがそう思つたらしいね」 ヨリカ (附)

『嘘ばつか』 バッカリ (講談社文庫)

「やっぱ、一軍はいいな」 ヤッパリ (ビ)

(3-3) ノダ形のまえの動詞語尾のルの省略

(3-3-1) ル抜き① <正確には、ティルの「イル抜き」>

「私のほうは起きてんだか寝てんだかわからない…」 オキテル、ネテル (無)

「何やってんだ、この人若旦那さんじゃないか」 ヤッテル (男)

「わしを締め出すとはどういう了見してんだ」 シテル (こ)

「お鍋でも焦がしてんじゃないの？」 コガシテル (附)

(3-3-2) ル抜き②

「こらこら 何すんだ あんたら」 スル (c)
 「もりそばをカレ一つゆに付けて食べんだよね」 食ベル^(註14)
 「馬鹿かお前ら。男女でおどんだよ。なあ権地」 オドル^(註15)

(3-4) ケレドのレ抜き

「後で挨拶に行くけどな」 行クケレド (男)
 「だけど、今日も…多分明日も、そっちには行けないな」 ダケレド (#)
 「逃がしたのは悪かったけど、逮捕する理由もないぜ」 悪カッタケレド (#)

(3-5) トコロのロ抜き

「たまにはいいとこみせてもいいじゃないか」 トコロ (中)
 「俺、ちょっと行きたいとこあるんだけど」 トコロ (男)
 「せっかく点数を稼げるとこだったのに」 トコロ (#)
 「戦争が終ったばっかりで、お守りどこじゃなかったのよ」 ドコロ (阿)
 「おだいどこに、もひとつあるから」 ダイドコロ (阿)

4 ナ行の母音の脱落

ナ行は母音がおちると子音のンだけが残ることになる。いわばもう一つの撥音便化である。ネの母音 e の脱落例はみつかっていない。

(4-1) na の母音 a が脱落

「そうなったらあんたも吐くしかなくなるぜ」 アナタ (#)
 「私は別に坊主になんかはならんかったわな」 ナラナカッタ (総)

(4-2) ni の母音 i が脱落

「日本がいやんなったから外国に行く！」 イヤニ (総)
 「なんかあったら、課の袖井君にいやあ、判るから」 ナニカ (阿)
 「恋に足をとられてなーんも分からなくなつた男は…」 ナニモ (総)
 「ダンベル買うならアマゾンが安い！なんせ送料が無料だから」 ナニセ^(註16)

(4-3) nu の母音 u が脱落

「勝手に動いてもあまり目立たんからな」 メダタヌ (#)
 「ワシが何を言いたいのかはよく分からんかもしけんが…」 ワカラヌ、カモシレヌ (総)
 「変わらんのは この呉服屋ぐらいなもんだ」 カワラヌ (c)

(4-4) no の母音 o が脱落

「新婚旅行ン時もね、ひとりで大きいフロ行ってさ…」 旅行ノ時 (阿)
 「そんとき建てた家のローンも半分もおわった」 ソノトキ (き)
 「だって私がこわしたんじやないもん」 ノジヤナイモノ (無)
 「二日や三日徹夜したってケロッとしてるもんなんだ」 モノナノダ (#)
 「あたしゃこないだ『ぴったん』でさあ…」 konoaida (無)

5 アスペクト動詞（いわゆる補助動詞）の簡略化 <連母音の短縮化>

アスペクト動詞も話すことばでは簡略化されるのがふつうである。

(5-1) テアルの a が脱落

「寝間着おいてるホテルがあるじゃない」 オイテアル^(註17)

(5-2) テイルの i が脱落

「しつこい男に追われてるの…」 オワレテイル (#)

「あんたときたら ミルクなんて飲んでてさ」 飲ンディイテ (中)

「昨夜渡すの忘れてた、今月分の食費」 忘レティタ (男)

「そこで会った男の顔は覚えてますか?」「覚えてません…」 イマス、イマセン (#)

「今のうちにエラそうにしてればいいわ」 シティレバ (イ)

(5-3) テイクの i が脱落

「あの人気が教えるとおり 歩いてくはずだった私は」 アルイテイク (中)

「まあ、ゆっくり見ててちょうだいよ」 ミティイッテ (無)

「縁もゆかりもない家に夜の夜中に忍びこんでったら…」 シノビコンディイッタラ (絶)

(5-4) テイラッシャルの i が脱落

「楽しんでらっしゃい」 イラッシャイ (男)

「ワタクシのブログに寄ってらしてね」 イラシテ^(註18)

(5-5) テオクの e が脱落

「もう一度いっとくけど、私のいうことしかきいちゃダメ」 itteoku (無)

「分かったよ。任せときな」 makaseteokina (#)

「派出所にかざつときましょうよ」 kazatteokimasho (シ)

「ほっとけ 親切にすると後悔するぞ」 hotteoke (イ)

「頼んどいて文句いってんだから…」 tanondeoite (阿)

(5-6) テオルの e が脱落

「あの山の中には闇屋が横行しとるようだな」 siteoru (イ)

「相当わしの本を読んどったみたいだわな」 yondeotta (絶)

(5-7) テオイデの e が脱落

「いっといでと猫が股火鉢」 itteoide (無)

「しっかり働いといでと言っている」 hataraiteoide (無)

(5-8) テアゲルの e が脱落

「<私が>やったげるよ」 yatteageru (阿)

「じゃあ、お母さんが寝るまで本読んだげる」 yondeageru^(註19)

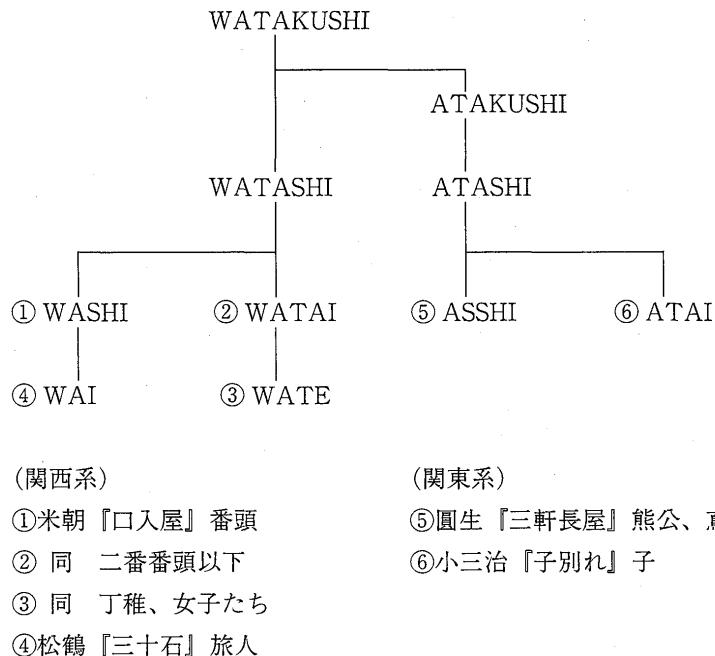
(5-9) アスペクト動詞でない類例

「聞けば仲々の通でらっしゃるが、…」 デイラッシャル (♂)

「三さら目でじゅーぶんだともうよ！」 toomou^(註20)

6 「わたくし」の場合

関西では「わたくし」がそのまま簡略化されていくが、関東ではまず「w」の音が脱落し、それから簡略化されることになる。(出典は落語のCDから)



7 単語（ことば）の省略

6まではいわゆる音変化のヴァリエーションであった。この7ではそれらとは少々異なる、かたちの変形をまとめてみた。これはこれでまたほとんど日本語の話しことばの特徴の一つといえるくらいさまざまな省略形がある。なかには昔から言い古されたものとともに、外来語やアルファベットの導入などまったく新しい省略形式もうまれている。

(7-1) 頭抜き

- 「色が やだ！」 イヤダ (縦)
 「るせえ！ 文句あるんだたら自分で作りやがれ」 ウルセエ(註21)
 「したら、彼は出勤途中で電話くれた」 ソウシタラ(註22)
 「ならどうして俺の名前を知っているんだ！』 ソレナラ(註23)
 「で 私は朝食抜きなわけ？』 ソレデ (イ)
 「ざけんなよ！ ざけんじやねえ！』 フザケンナ フザケンジヤネエ(註24)
 「つたく 荒っぽい連中だな』 マッタク (イ)
 「ちわーっ ご注文の品を届けに来ました』 コンニチワ (イ)

(7-2) 語尾抜き

- 「22日はビアンの飲み会が。それはもち参加」 モチロン(註25)
 「そのおせじをマジにうけとめるのが母親の一大問題なのだ」 マジメ (無)
 「下校時の学童の安全はスクールバスを考慮すればいいのでは」 ノデハナイカ(註26)
 「ここ日本じゃないのかも、という学園祭」 カモシレナイ(註27)

(7-3) ことわざの簡略化

- タナボタ 棚牡丹 ～ 「棚から牡丹餅」(広辞苑第五版)
ドロナワ 泥縄 ～ 「泥棒を捕えて縄をなう」(同)
ヤブヘビ 蔵蛇 ～ 「蔵をつづいて蛇を出す」(同)

(7-4) 固有名詞の簡略化

- キムタク 木村拓哉 ／ サトエリ 佐藤江梨子 ／ マツケン 松平健 ／ ヨン様 ペ・ヨンジュン ／
冬ソナ 「冬のソナタ」 ／ 日テレ 日本テレビ ／ アキバ 秋葉原 ／ 首都高 首都高速道路 ／
万博 万国博覧会 ／ 国連 國際連合

(7-5) 簡略化によってうまれたふつう名詞

- 億ション 1億円以上の高額マンション
デパ地下 デパートの地下売り場

(7-6) 外来語の簡略化

- コンビニ コンビニエンス・ストア
ファミレス ファミリー・レストラン
デジカメ デジタル・カメラ
メルマガ イーメール・マガジン

(7-7) イニシャル化

- TX つくばエクスプレス
PC パーソナル・コンピュータ (パソコン)
ODA 地域開発援助
EU 欧州連合
Xマス クリスマス
IT 革命 インフォメーション・テクノロジー (情報技術) による社会変革
IP 電話 インターネット・プロトコル電話

以上、第1部として話すことばの単音的変形をまとめてみた。でたらめに使われているかのような変形が、意外なほどに規則性をもっていることが明らかにされたのではないかと思う。

註

- 1 明治35年「官報」
- 2 大正6年『口語法別記』
- 3 日本語の母音はすべて有声音とされるが、じっさいの発音では無声化されていることも少なくない。たとえばデス・マスの語尾の母音uは関東地方ではあまり発音されないといわれるが、文章でそれが書きあらわされることはほとんどない。そのように表記上にあらわれない変形は本稿の対象としなかった。
- 4 アラジン石油ストーブホームページ 2005/12/18 見出し (インターネットGoogleによる検索、2005年12月)
- 5 個人ブログの表題 (同)
- 6 Sobakasu Days ブログ 2005.12.02 見出し (同)
- 7 ホットペッパーホームページから創作家庭料理の店の広告 (同)
- 8 CLEVER BBS ブログ 2004/11/12 の項 (同)
- 9 産経新聞 2004年2月8日10面読書欄「イン・ハー・シユーズ」紹介文

近藤 日本語の口語的変形

- 10 真実・篠田博之の部屋ホームページ 2001年1月10日 <番外5> (同)
- 11 大井町ポータルサイトホームページ「カズおばあちゃん大井町昔話」第2回の項 (同)
- 12 CLEVER BBS ブログ 2004/11/12 の項 (同)
- 13 三原市商工観光課ホームページ「広島県最低賃金のお知らせ」の項 (同)
- 14 福島幹夫の食わなきや死ぬ!ホームページ 2005.3/19 の項 (同)
- 15 雲が流れる…ホームページ「テニスの王子様 氷帝学園夢」の項 (同)
- 16 OSX-NAVI プラスのブログ 2005.12.05 見出し (同)
- 17 フジテレビ「LOVELOVE あいしてる」1998年8月22日深夜放映 話し手はこの後聞き手たちに“ネマキ!?”と突っこまれ、“ネマキ～おいであるホテル～”とアを入れて言い直した。
- 18 ノエビア販売代理店帯広西中央代理店ブログ表紙 (同)
- 19 京都嵯峨芸術大学ホームページ学びのヒント 04/03/01 の項 (同)
- 20 ロングマールの翻訳部屋ホームページ「シルヴィーとブルーノ完結編」第23章 豚の尾話の項 (同)
- 21 ひなまつりホームページ (以下インターネット Yahoo による検索、2005年12月)
- 22 honey trap ブログ 2004.3.15 の項 (同)
- 23 はてしない川のほとりホームページ (同)
- 24 個人ブログの表題および 2005/09/10 見出し (同)
- 25 過去への巡礼ホームページ 2005.1.8 の項 (同)
- 26 極東ブログ 2005.12.04 見出し (同)
- 27 Daily Portal ホームページ特集 2004/12/1 見出し (同)

参考文献

- 高橋太郎他『日本語の文法』2005 ひつじ書房
飛田良文編『言文一致運動』2004 明治書院
『東京語成立史の研究』1992 東京堂出版
国立国語研究所編『言葉の「正しさ」とは何か』2004 国立印刷局
文化庁『国語施策百年の歩み』2003 文化庁
倉島長正『国語100年』2002 小学館
前川喜久雄「母音の無声化」『講座日本語と日本語教育2』1989 明治書院
古田東朔「江戸ことば・東京ことば」『江戸東京学事典』1987 三省堂

用例の出典

- 中島みゆき全歌集 1990 朝日文庫
浅田次郎『きんぴか』1995 飛天出版
群ようこ『無印良女』、沢田康彦 解説 1988 角川文庫
山田洋次、朝間義隆『男はつらいよ 拝啓 車寅次郎様』シナリオ 1995 (1月号)
向田邦子『阿修羅のごとく』1985 新潮文庫
小川英、杉昌英『ザ・刑事』最終回 準備稿 1990 テレビ朝日
橋本治『絵本徒然草』1990 河出書房新社
秋本治『こちら葛飾区亀有公園前派出所 ★粹だね!下町人情編』1995 集英社
青池保子『エロイカより愛をこめて(20)』1996 秋田書店
ピックミックオリジナル (7月5日号) 1997 小学館
新聞、テレビ、インターネット等

(2006年1月10日受理)